みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

民博通信 Online no.7; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: National Museum of Ethnology 公開日: 2023-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00010011

みんぱく
つうしん
オンライン

民博通信

Online

No.7
2023

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

民博通信

— Online —

No.7
2023

『民博通信 Online』について

国立民族学博物館は、文化人類学や民族学研究のセンターとして、世界の諸民族の社会や文化の研究を進めるとともに、その成果を出版などのかたちで発信しています。

現在、本館では、人間文化の新たな価値体系の創出を目指す「基幹研究プロジェクト」、現代の人類社会が直面する課題の分析を目的とする「特別研究」、特定のテーマについて館内外の研究者と一緒に研究を進める「共同研究」などをおこなっています。

『民博通信 Online』は、本館において実施している個々の研究プロジェクトについて、その学術的な特色や独創的な点、導きだされた成果などを、研究者や一般の方々にわかりやすく発信する雑誌です。

表紙写真
「多様性の壁」（詳細は本誌12-13頁）

CONTENTS

Start up

基幹研究 環インド洋地域研究

地域研究の刷新と環インド洋世界研究

三尾稔 ―― 4

基幹研究 グローバル地中海地域研究

共感共創学としての風土学の再構築
―環境と心性を架橋する人と自然の科学知に向けたグローバル人文学の創成へ

西尾哲夫 ―― 6

基幹研究 海域アジア・オセアニア研究

海域世界の地域研究が目指す新たな地平線

小野林太郎 ―― 8

基幹研究 東ユーラシア研究

東ユーラシアという「辺境」の宗教とサブカルチャーから幸せと軋轢を考える

島村一平 ―― 10

特別研究 ポストナショナリズム時代の博物館の挑戦―少数／先住民族の文化をいかに展示するか

特別研究「ポストナショナリズム時代の博物館の挑戦」の射程

鈴木紀 ―― 12

共同研究 アジアの狩猟採集民の移動と生業―多様な環境適応の人類史

アジアの狩猟採集民への新たなまなざし
―移動と生業の人類史

池谷和信 ―― 14

共同研究 グローバル資本主義における多様な論理の接合―学際的アプローチ

「接合」から資本主義を考える

中川理 ―― 16

共同研究 ミックスをめぐる帰属と差異化の比較民族誌―オセアニアの先住民を中心に

先住民であることとミックスであること
―オセアニアの先住民を中心に

山内由理子 ―― 18

共同研究 国立民族学博物館所蔵木製品標本資料にもとづく森林資源利用史の研究―桶と樽に着目して

木材製品の環境的・文化的価値

落合雪野 ―― 20

新刊の紹介 ―― 22

国立民族学博物館の研究 ―― 24

新刊の紹介

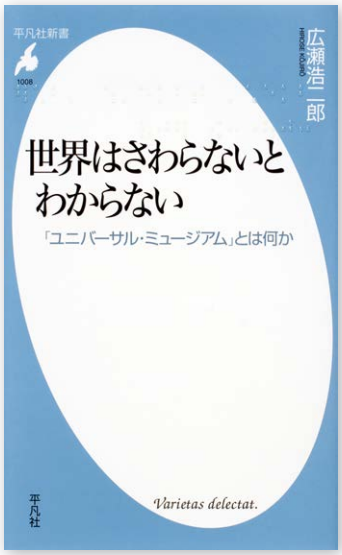
本館では、館外での出版物を奨励する制度があります。★の印は、その制度を利用して刊行された出版物です。タイトルをクリックすると詳細情報に移動します。

手話が「発音」できなくなる時
―言語機能障害からみる話者と社会

石原 和・菊澤 律子 編

定価：1,870円（税込）　144頁　ひつじ書房　2022年9月5日刊行

手話は言語である。こうした認識はこの10年で一気に進んだ。しかし、「手話が言語である」ということは、いったいどのような意味なのだろうか？本書では、交通事故によって手話が部分的に「発音」できなくなった事例とその障害認定をめぐって、話者の立場、言語学の立場からみた解釈、法律上の解釈やアメリカでの類似事例をわかりやすく紹介した。本書を通じて、テレビやイベントで手話通訳がつくのが当たり前になってきた現在において、改めて手話とその話者を取り巻く社会がなおも抱える問題を捉え直す視点を提供している。



世界はさわらないとわからない
―「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か

広瀬 浩二郎 著

定価：1,034円（税込）　272頁　平凡社　2022年7月20日刊行

特別展「ユニバーサル・ミュージアム」はコロナ禍の真っただ中、2021年９月－11月に開催された。本書はこの特別展が開かれるまでの経緯を紹介するとともに、近代を乗り越える「さわる文明」の意義を多角的に論じている。各方面で「非接触」が強調される状況下、あえて大規模な「さわる展示」を実施することで、ユニバーサル・ミュージアムの可能性と必要性を広くアピールできたのは間違いない。
「ユニバーサル・ミュージアム研究会」は2009年に発足した。「なぜさわるのか」「どうさわるのか」を学際的に検討してきた研究会の議論の蓄積が特別展に結実したといえる。特別展の成果を踏まえ、本書では「ユニバーサル・ミュージアム学」の確立を宣言している。単なる特別展の報告書というレベルにとどまらず、本書が日本におけるユニバーサル・ミュージアム学の基本文献として活用されることを期待したい。

世界の仮面文化事典

吉田 憲司（編者代表）
岸上伸啓・笹原亮二・新免光比呂・林勲男・福岡正太・南真木人 編

定価：19,800円（税込）　437頁　丸善出版　2022年5月30日刊行

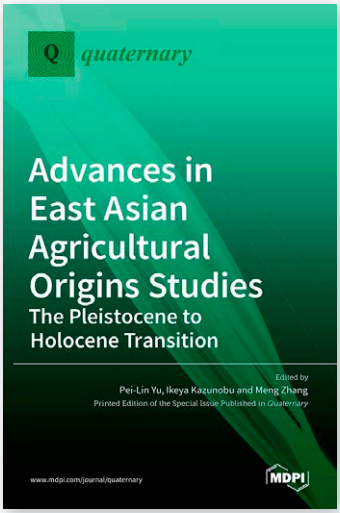
この事典は、世界各地の仮面と、仮面を取り巻く文化を広く見渡し、その多様性と普遍性を浮かび上がらせることを目的として編集された。仮面についての総論を第１部とし、第２部では地域別に概説と項目別の仮面についての解説を付す。本事典では、「事典」の通例と異なり、巻頭の口絵にカラー図版をふんだんに用いて躍動する仮面の姿を紹介し、仮面の各項目の解説も、短編ながら仮面の民族誌とでも呼ぶべきものとなっている。

Advances in East Asian Agricultural Origins Studies:
The Pleistocene to Holocene Transition

Pei-Lin Yu, Ikeya Kazunobu, and Meng Zhang（eds.）

定価：64.25スイスフラン　165頁　MDPI　2022年3月刊行

東アジアは、イネ、アワ、ヒエ、キビなどの穀物が栽培化された世界の農耕センターの１つである。これらの起源地は、主として現在の中国であることが知られているが、東アジアのほかの地域に伝播したものと、北海道のように一部が到達した地域もみられる。本書は、東アジアにおける農耕の起源とそこからの拡散をテーマにして、とりわけ中国、台湾、日本を対象にする研究成果を統合したものである。東アジア各地における農耕の導入過程の違い、および導入にともなう地域社会の対応の方法を解明している。



アイヌのビーズ
―美と祈りの二万年

池谷 和信 編

定価：3,740円（税込）　288頁　平凡社　2022年3月31日刊行

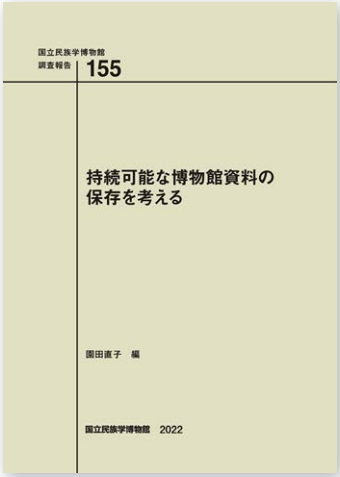
本書は、国内で初めてアイヌのビーズを正面からとりあげた学術書であるとともに、ビーズをとおしてみたアイヌ文化の動態を紹介している。また本書では、アイヌの事例がより広い視点をもって人類の歴史のなかに位置づける試みがなされている。このことによって、アイヌのビーズのもつ普遍性と多様性を示すことに貢献している。近年、人類文明の未来を考えるために人とは何かが論じられることが多いが、先住民アイヌの事例が人類にとってのビーズの役割や人間らしさを考える際のヒントを提供してくれる。

持続可能な博物館資料の保存を考える
国立民族学博物館調査報告
Senri Ethnological Reports（SER）No.155

園田 直子 編

360頁　2022年11月7日刊行

本書は、国立民族学博物館の共同研究「博物館における持続可能な資料管理および環境整備―保存科学の視点から」（2017年10月－2023年３月、代表者・園田直子）の成果の一部である。本研究では、モノ資料だけでなく、映像・写真資料も対象とし、さらには大規模な施設に限らず、設備、人手、経費が限られる小規模な施設や個人宅での保存も視野に入れている。環境への配慮が一層求められる社会状況のもと、博物館に問われている、持続可能な資料管理と保存環境の整備に関する現状を、具体的事例をもとに提示するとともに、そこから見えてきた可能性と課題を考察した。



国立民族学博物館の研究

各プロジェクト名をクリックすると詳細情報に移動します。

■ 基幹研究プロジェクト

人間文化研究機構は、人間文化の新たな価値体系の創出をめざして、国内外の研究機関や地域社会等と組織的に連携し、現代的諸課題の解明に資する「基幹研究プロジェクト」を推進しています。機関拠点型・広領域連携型・ネットワーク型の3つの類型から構成され、本館でもそれぞれのプロジェクトに取り組んでいます。

	プロジェクト名	研究代表者	研究期間（年度）
	機関拠点型プロジェクト／フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文学研究の推進		
基盤型	オーストラリア先住民の物質文化に関する研究 ― 民博収蔵の学術資料を中心に	平野智佳子	2022−2025
基盤型	日本人の太平洋収集に関する総合的アーカイブスの構築	丹羽　典生	2022−2025
推進型	徳之島・奄美大島の芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムのデータベースを基盤とした芸能研究の推進とその成果としてのマルチメディア番組及び展示の制作・公開	笹原　亮二	2022−2023
推進型	第一次東南アジア稲作民族文化綜合調査のアーカイブス構築 ― タイの写真資料を中心に	平井京之介	2022−2023
推進型	台湾研究デジタル統合アーカイブの構築	野林　厚志	2022−2023
	広領域連携型プロジェクト		
	地域文化の効果的な活用モデルの構築（「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」内のユニット）	日髙　真吾	2022−2027
	ネットワーク型プロジェクト		
	グローバル地中海地域研究	西尾　哲夫	2022−2027
	環インド洋地域研究	三尾　　稔	2022−2027
	海域アジア・オセアニア研究	小野林太郎	2022−2027
	東ユーラシア研究	島村　一平	2022−2027

■ 特別研究

「現代文明と人類と未来 ― 環境・文化・人間」を統一テーマとし、環境、食、文化衝突、文化遺産、マイノリティ、人口問題という課題にかんして、それぞれ3年の研究期間を設定し、国際シンポジウムや欧文での成果刊行を行い、研究を実施しています。この研究を通じて、現代文明を人類学的な視座から再検証することを目的としています。

研究課題	研究代表者	研究期間（年度）
ポストナショナリズム時代の博物館の挑戦 ― 少数／先住民族の文化をいかに展示するか	鈴木　　紀	2022−2024
不確実性の時代における家族の潜勢力 ― モビリティ、テクノロジー、身体	森　　明子	2021−2023
コロナ禍に対するローカルな対処としての「文化の免疫系」に関する比較研究	島村　一平	2020−2023
グローバル地域研究と地球社会の認知地図 ― わたしたちはいかに世界を共創するのか？	西尾　哲夫	2020−2022
パフォーミング・アーツと積極的共生	寺田　吉孝／福岡　正太	2018−2022

バックナンバーのご案内

「民博通信 online」
No.1
2020年3月31日発行

「民博通信 online」
No.2
2020年9月30日発行

「民博通信 online」
No.3
2021年3月31日発行

■ 共同研究

特定のテーマについて、館内外の専門家を数人から20人程度集めて研究会をひらき、成果をあげる研究活動です。

●は館外の代表

	研究課題	研究代表者	研究期間（年度）	
一般	課題１：文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究			
	アジアの狩猟採集民の移動と生業 ― 多様な環境適応の人類史	池谷　和信	2022－2024	
	グローバル資本主義における多様な論理の接合 ― 学際的アプローチ	中川　　理	2022－2024	
	ミックスをめぐる帰属と差異化の比較民族誌 ― オセアニアの先住民を中心に	山内由理子	2022－2024	●
	現代アジアにおける生殖テクノロジーと養育 ― ジェンダーとリプロダクションの学際的比較研究	白井　千晶	2021－2023	●
	被傷性の人類学／人間学	竹沢尚一郎	2021－2023	
	観光における不確実性の再定位	土井　清美	2021－2023	●
	日本列島の鵜飼文化に関するＴ字型学際共同アプローチ ― 野生性と権力をめぐって	卯田　宗平	2020－2022	
	戦争・帝国主義と食の変容 ― 食と国家の関係を再考する	宇田川妙子	2020－2023	
	海外フィールド経験のフィードバックによる新たな人類学的日本文化研究の試み	片岡　　樹	2020－2023	●
	環北太平洋地域の先住民社会の変化、現状、未来に関する学際的比較研究 ― 人類史的視点から	岸上　伸啓	2020－2023	
	月経をめぐる国際開発の影響の比較研究 ― ジェンダーおよび医療化の視点から	新本万里子	2020－2023	●
	不確実性のなかでオルタナティヴなコミュニティを問う ― モノ、制度、身体のからみあい	森　　明子	2020－2023	
	「描かれた動物」の人類学 ― 動物×ヒトの生成変化に着目して	山口未花子	2020－2023	●
	グローバル化時代における「観光化／脱－観光化」のダイナミズムに関する研究	東　賢太朗	2019－2022	●
	島世界における葬送の人類学 ― 東南アジア・東アジア・オセアニアの時空間比較	小野林太郎	2019－2022	
	社会・文化人類学における中国研究の理論的定位 ― 12のテーマをめぐる再検討と再評価	河合　洋尚	2019－2022	●
	人類史における移動概念の再構築 ―「自由」と「不自由」の相克に注目して	鈴木　英明	2019－2022	
	食生活から考える持続可能な社会 ―「主食」の形成と展開	野林　厚志	2019－2022	
	オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究	風間　計博	2018－2022	●
	統治のフロンティア空間をめぐる人類学 ― 国家・資本・住民の関係を考察する	佐川　　徹	2018－2022	●
	カネとチカラの民族誌 ― 公共性の生態学にむけて	内藤　直樹	2018－2022	●
	伝統染織品の生産と消費 ― 文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐって	中谷　文美	2018－2022	●
	グローバル時代における「寛容性／非寛容性」をめぐるナラティヴ・ポリティクス	山　　泰幸	2018－2022	●
	ネオリベラリズムのモラリティ	田沼　幸子	2017－2022	●
	人類学／民俗学の学知と国民国家の関係 ― 20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス	中生　勝美	2017－2022	●
	課題２：本館の所蔵する資料に関する研究			
	国立民族学博物館所蔵木製品標本資料にもとづく森林資源利用史の研究 ― 桶と樽に着目して	落合　雪野	2022－2024	●
	民博所蔵東洋音楽学会資料に基づく日本民俗音楽の再構成と再活性化	植村　幸生	2021－2023	●
	日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究 ― 国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に	丹羽　典生	2021－2023	
	沙流川調査を中心とする泉靖一資料の再検討	大西　秀之	2019－2022	●
	博物館における持続可能な資料管理および環境整備 ― 保存科学の視点から	園田　直子	2017－2022	
若手	課題１：文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究			
	伝承のかたちに「触れる」プロジェクト ―「3D プリント×伝統素材・技法」のアプローチから	宮坂　慎司	2021－2023	●
	先住民と情報化する社会の関わり	近藤　祉秋	2020－2022	●
	感性と制度のつながり ― 芸術をめぐる「喚起」と「評価」のプロセスから考える	緒方しらべ	2019－2022	●
	モビリティと物質性の人類学	古川不可知	2019－2022	●

「民博通信 online」
No.4
2021年9月30日発行

「民博通信 online」
No.5
2022年3月31日発行

「民博通信 online」
No.6
2022年9月30日発行

民博通信

— Online —

No.7
2023

ISSN 2758-0997

『民博通信 Online』 No.7（旧『民博通信』通巻171号）
2023年3月31日

編集委員
卯田 宗平（編集長）
伊藤 敦規
岡田 恵美
樫永 真佐夫

編集・発行
人間文化研究機構　国立民族学博物館
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話：06-6876-2151
https://www.minpaku.ac.jp/

制作
株式会社 遊文舎